

学長候補者の選定について（追加説明）

国立大学法人新潟大学

学長選考・監察会議

議長 三輪 正明

令和 7 年 9 月 25 日に開催された国立大学法人新潟大学学長選考・監察会議（以下「本会議」という。）における次期学長候補者の選定に関する本会議としての説明に関して、教授会等から更なる要望等がありましたので、以下のとおり説明いたします。

1. 各委員のすべての発言を時系列で記載した議事録及び投票結果（票数）について

各委員のすべての発言を時系列で記載した議事録等の開示の要望がありましたが、本会議としては、学長候補者選考の重要性を鑑み、委員の主な発言等を詳細に記載した議事概要や 11 月 26 日に公開した文書等を通して、選定理由や議論の経緯は説明させていただいたところです。

意向投票の結果を重要視すべきとの意見と、選定項目の一つとして意向投票の結果は尊重しつつも、大学運営や経営に携わった経験や実績等も踏まえ他の候補者を高く評価する意見とに分かれたことから合議による選定に至らず、学長選考基準に基づき、委員による投票を行い選定いたしました。

国立大学を取り巻く環境が年々厳しさを増し、特に経営面の重要性が高まり、地域との共創や国際化の推進等が強く求められる中で、本学が成果をあげている取組の継続性や理事として大学運営や経営に携わった経験や実績等が高く評価された染矢氏への票が小野寺氏への票を上回った結果と考えています。

なお、選定過程で 3 回実施した投票結果については、当日は無記名投票で実施し、票数の公開を前提にしておらず、票数を明らかにすることで各委員がどの候補者に投票したのか等の事実反する推測を助長する恐れがあることから公開を差し控えております。

また、本件は人事に係る審議であることから、各委員のすべての発言を詳らかにすることは、候補者に対する特定の発言が候補者の評価や名誉に不当な影響を及ぼすおそれや、今後の円滑な大学運営への悪影響が懸念されます。また、発言者の推測や特定により、今後の本会議における委員間の率直な意見交換が損なわれることがないようにする必要性もあることから、より詳細な議事録の作成、公開は予定しておりません。

2. 学長候補者の選定に係る審議における学外委員と学内委員の構成について

今回、選考過程において学内委員 1 名が学長候補者の選定の対象となったことから、学外委員と学内委員の人数が異なる中で選定を行うことになったことに対しご意見をいただきましたが、学外委員と学内委員とで支持する候補者が明確に分かれるものではないため、学内外委員数のバ

ランスが今回の選定結果に影響し公平性を欠いたとは考えておりません。

また、学内委員に限らず、多数の委員が選定の対象となった場合に、会議の成立要件に影響する可能性があることについては、選考の過程において認識いたしましたが、委員の補充方法については様々な観点から十分な検討が必要であることから、今回の学長選考では見送り、次回の選考に向けて引き続き検討することとしております。(R7.6.3 第 102 回学長選考・監察会議)

なお、上記の件に限らず、次回の選考に向けて改善が必要な事項については、本会議において議論を開始しており、今後、十分に検討した上で関係規則等の改正などの見直しを図っていきたいと考えております。